

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター (IGS) 主催

## 第 13 回夜間セミナー

# 東アジアにおける ジェンダー／セクシュアリティ理論と政治の諸課題

何春蕙 (Josephine Ho ジョセフィン・ホー)

台湾 国立中央大学英語学部教授、セクシュアリティ研究センター コーディネーター

2003 年 5 月 28 日、6 月 4 日、18 日 (以上、水曜)、27 日、7 月 4 日 (以上、金曜)  
(全回：6:30～8:30 pm)

開催場所：お茶の水女子大学理学部 3 号館会議室(6 月 4 日のみ附属図書館第 2 会議室)  
英-日逐次通訳付き

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター (IGS) は、2003 年 4 月から 9 月まで客員教授としてジョセフィン・ホー (何春蕙) 教授をお迎えすることになりました。ホー教授は、現在、台湾の国立中央大学英語学部の教授であり、同大学にセクシュアリティ研究センター (Center for the Study of Sexualities; 性/別研究室 <http://sex.ncu.edu.tw>) を創設した以降、コーディネーターの任にあります。

ホー教授は、台湾のセクシュアリティ/ジェンダー研究における指導的研究者として知られており、中国語単著として、「豪爽女人 (The Gallant Women - Feminism and Sexual Emancipation)」(1994)、「不同國女人 (Gendered Nations - Sexuality, Capital and Culture)」(1994)、「性心情 (Sexual Moods: A Therapeutic and Liberatory Report on Female Sexuality)」(1996)、「性/別校園 (Radical Sexuality Education: Gender/Sexuality Education for the "New Generation")」(1998)、「好色女人 (The Admirable/Lovely Woman)」(1998) などの複数の著書がある他、編著書も多数刊行しています。

台湾においてセクシュアリティの問題を公の場で討論したり、研究することがタブーではなくなったのは、1990 年代に入ってからで、ホー教授はセクシュアリティ研究を推進する学問的な活動だけでなく、セクシュアル・ハラスメント概念を台湾に定着させるなど、社会的な活動に積極的に関与し、このような台湾社会における変化をもたらすうえで大きな役割を果たしてきました。1994 年には United Evening News より Woman Who Changed Taiwan 賞、ならびに Independence Evening News より Woman of the Year 賞を受賞しております。

当センターでは、ホー教授の来日に伴い、「東アジアにおけるジェンダー／セクシュアリティ理論と政治の諸課題」というテーマのもとに下記概要の要領で夜間セミナーを開催いたします。大学内外に開かれたセミナーですので、皆様ふるってご参加ください。

第 13 回夜間セミナー実行委員会：伊藤るり、河野貴代美、竹村和子、宮尾正樹

事務局：秋林こずえ、長谷川和美

	テーマ	コメンテーター	司会
I. 5月28日(水)	ポルノグラフィと女性の性的主体性	根村直美 (日本大学)	河野貴代美 (本学)
II. 6月4日(水)	セックスワークにおける セルフエンパワーメントと職業的行為遂行性	水島希 (UNIDOS, SWASH)	同上
III. 6月18日(水)	スパイス・ガールズから援助交際へ	田崎英明 (大学非常勤教員)	同上
IV. 6月27日(金)	反人身売買から社会的規律へ	竹村和子 (本学)	伊藤るり (本学)
V. 7月4日(金)	アイデンティティと身体化 —トランスジェンダーを構築する—	三橋順子 (中央大学)	同上

#### I. 5月28日(水)

### ポルノグラフィと女性の性的主体性

コメンテーター：根村直美（日本大学助教授）

司会：河野貴代美（本学教授）

ポルノグラフィとそれへの安易なアクセスに関しては、従来より懸念が表明されてきたわけだが、ケーブルTVとインターネットの普及はこうした傾向にいつそう拍車をかけてきている。男性支配を強化するようなポルノグラフィ、そのなかの女性の欲望に関する表象、ならびに男性の欲望に関する誇大化された表象に対して加えられてきたフェミニスト批判は、公共言説のなかでその影響力を強めている。フェミニストはまた、国家の支持を積極的に求め、活字メディア、あるいはインターネットにおけるポルノグラフィの生産とその流通を禁止するような法律の制定を追求してきた。この講義では、ポルノグラフィをめぐるフェミニストの立場からの論争とその含意について、フェミニズム思想だけでなく、社会構築主義の視点から検討する。

#### Basic Reading:

Vance, Carole S., ed. *Pleasure and Danger: Exploring Female Sexuality*. London: Pandora, 1989, 1992. 1-27.

#### Further Reading:

Rubin, Gayle. "Misguided, Dangerous and Wrong: an Analysis of Anti-Pornography Politics." *Bad Girls and Dirty Pictures: The Challenge to Reclaim Feminism*. Eds. By Alison Assiter & Avedon Carol. Boulder, Colorado: Pluto Press, 1993. 18-40.

II. 6月4日 (水)

## セックス・ワークにおけるセルフ・エンパワメントと職業的行為遂行性

コメンテーター：水島希 (セックスワークの非犯罪化を要求するグループ UNIDOS,  
SWASH Sex Work and Sexual Health)

司会：河野貴代美 (本学教授)

過去数十年間において、女性の性的権力と主体性の問題は、フェミニストの性をめぐる論争の焦点となってきた。この講義では、セックス・ワーカー活動家との会話に基づきながら、台湾のセックス・ワーカーがきわめて限定された文化的資源の中から紡ぎ出してきたセルフ・エンパワメントの言説や実践を考察する。こうした言説や実践は、セックス・ワーカーが自分の労働条件をより良く把握することを可能とするだけでなく、自分たちを身体的な危害や社会的な非難から守るための職業的イメージを作るために役立つ。講義では台湾のセックス・ワーカーが闘争を通じて自分たちの職業的イメージに関するセルフ・エンパワメントをどのように果たしてきたかを考える。

### Basic Reading:

Ho, Josephine. "Self-Empowerment and 'Professionalism': Conversations with Taiwanese Sex Workers." *InterAsia Journal of Cultural Studies* 2 (Aug. 2000): 283-299.

### Further Reading:

Chapkis, Wendy. *Live Sex Acts: Women Performing Erotic Labor*. New York: Routledge, 1997. 69-82.

III. 6月18日 (水)

## スパイス・ガールズから〈エンジョ・コウサイ〉へ 台湾におけるティーンエイジ・ガールのセクシュアリティの形成

コメンテーター：田崎英明 (大学非常勤教員)

司会：河野貴代美 (本学教授)

性的な冒険心や性的な自己決定をいくらかでも示そうとする少女たち。彼女たちは、危ない橋をわたり、ついには悲劇的結末にいたる「問題少女」とラベリングされるのがふつうである。にもかかわらず、最近十年のあいだに、台湾ではティーンエイジャーによる性的な表現や活動がかなり広範に観察されてきた。実際、ティーンエイジ・ガールの性的な表現はあまりに目立ち過ぎ、挑戦的であるために、大人たちは躍起になって彼女たちのエネルギーを押さえ込もうとしている。この講義では、今日の台湾におけるティーンエイジ・ガールのもっとも顕著なセクシュアリティの構成を捉え、そのような現象を可能ならしめている、台湾に現在深く進行している社会変動について広い見地からの理解を獲得したい。

### Basic Reading:

Ehrenreich, Barbara, Elizabeth Hess, & Gloria Jacobs. *Re-Making Love: the Feminization of Sex*. New York: Doubleday, 1986. 10-38.

**Further Reading:**

Rubin, Gayle. "Thinking sex: notes for a radical theory of the politics of Sexuality." *Pleasure and Danger: Exploring Female Sexuality*, 2nd ed. Ed. by Carol S. Vance. London: Pandora Press, 1984, 1989, 1992. 267-319.

IV. 6月27日 (金)

## 反人身売買から社会的規律へ

コメンテーター：竹村和子 (本学教授)

司会：伊藤るり (本学教授)

「人類史上最古の職業」とされる売買春はいつどんな時にも公共言説の対象となり、注目を集めるわけではない。しかし、ある種の危機が訪れると、売買春は、社会の中で適切な場を得ていないさまざまな台頭勢力や社会不安が顕在化するための「メタファー、表現媒体」となる場合もある。この講義では、台湾の文脈でどのように売買春の「問題」が反人身売買言説の中に取り込まれるようになり、またどのようにしてこの反人身売買言説が急速に変化する社会的現実の中で徐々にレレバンス (社会的参照力) を失い、人身売買される者だけでなく、より広い層の人びとをも規制するような社会的規律の微細で緊密な網の目へと転形していったか、そのプロセスを追っていく。

**Basic Reading:**

Ho, Josephine. "From Anti-Trafficking to Social Discipline: The Case in Taiwan." (Forthcoming in *Shifting the Debate: New Approaches to Trafficking, Migration, and Sex Work in Asia*, eds. by Kamala Kempadoo, Jyoti Sanghera, & Bandana Pattanaik)

**Further Reading:**

Bland, Lucy. *Banishing the Beast: Sexuality and the Early Feminists*. New York: The New Press, 1995. 95-123.

V. 7月4日 (金)

## アイデンティティと身体化——トランスジェンダーを構築する

コメンテーター：三橋順子 (中央大学社会科学研究所客員研究員)

司会：伊藤るり (本学教授)

台湾におけるトランスジェンダー化された主体は、社会的資源と文化的な場が限られている中で、自己の性的身体とジェンダー・アイデンティティを確保するために、自己の身体とイメージの構築にむけて奮闘してきた。台湾の文脈におけるトランスジェンダーの存在とその特徴、ならびにこれらの主体が自らの社会的存在を位置づけるための躍動的戦略についての研究は、まだその緒についたばかりといえる。性別、年齢、社会経済的地位、外見、体格等の差異が、かれらのアイデンティティを説得的に身体化するうえでどのように影響し、ど

のようにこの自己の構築過程を通して造り上げられる主体が身体化されるジェンダーの意味や呈示を屈折させつづけると同時に、私たちの同種二態的ジェンダー文化に新しい変数を投じているかを検討する。

**Basic Reading:**

Prosser, Jay (1998). *Second Skins: The Body Narratives of Transsexuality*. New York: Columbia UP. 1-17.

**Further Reading:**

Califia, Pat (1997). *Sex Changes: The Politics of Transgenderism*. San Francisco: Cleis P. 86-119.